

クラス	303	担当教員	工藤 英美
テーマ	子どもの発達を保障する「インクルーシブ保育」の研究		
著書・論文	【論文】金仙玉・工藤英美・山本理絵. 韓国のインクルーシブ教育・保育の動向--『2019改訂より課程運営支援資料』から、人間発達学研究, (13)、pp.61-72、2022年.		
研究課題等	保育者のインクルーシブ保育に対する認識保育者の意識調査の傾向より 愛知県立大学生涯発達研究所 生涯発達研究 10,95-100頁 (共著) .2018.		
	幼児における多義図形認知の発達:図形の解体と再構成の経験が自発的反転に与える効果 発達心理学研究 28(2),74-83頁 (単著) .2017.		
	【研究課題】 幼児期の表象発達、インクルーシブ保育		
ゼミナール概要			
キーワード：乳幼児の発達、発達保障、インクルーシブ保育、障害理解			
目的、内容、方法、授業計画等：			
<p>目的：</p> <p>本ゼミでは、子どもの発達について深く理解し、<u>全ての子どもの発達が保障される「インクルーシブ保育」</u>について研究していくことが目的です。また、卒業論文を書き上げる上で必要なスキル（学術論文を読む、ディスカッションやプレゼン、論文を書くなど）の習得と向上を目的とします。</p> <p>そのために、以下の学習目標を掲げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①乳幼児期の発達過程や、発達と発達つながりに関する知識を身につける。 ②障害がある子どもの発達に関する知識を身につける。 ③学術論文を読めるようになる。 ④自分の疑問、興味、関心を整理し、卒業論文執筆のための研究計画を立案できる。 			
<p>内容：</p> <p>本ゼミでは、自明とされていることを改めて問い直し、子どもの発達を保障する「インクルーシブ保育」について考えていきたいと思えます。そのためには、まず地域の保育所・発達支援センターの子どもと関わり、体験的に「子どもを知る」ことから始めます。次に、関わりの中で生じた疑問について文献等を読み、プレゼンやディスカッションを通して、乳幼児期の発達過程や障害理解に関する知識を深めていきます。その知識を踏まえながら、障害の有無に関わらず全ての子どもが楽しめる活動を計画し、地域の保育所で実践しながら、子どもの発達を保障するインクルーシブ保育について考えていきます。</p>			
<p>授業計画等：</p> <p><u>3年次前期</u>は、月1回程度、地域の保育所・発達支援センターに出かけ、障害がある子どもと活動を通して関わり、障害のある子どもについて理解を深めます。個々の子どもの特徴が掴めたところで、保育所・発達支援センターにおいて、全ての子どもが楽しく遊べる活動を計画し、実践します。<u>3年次後期</u>は、子どもと関わる活動を通して、自分の興味、関心がどこにあるのかを見つけ、卒業研究につながるような「問い」を設定していきます。また、文献講読を通して、論文の読み方やまとめ方、また、プレゼンやディスカッション等の卒業研究に必要なスキルを身につけます。</p> <p><u>4年次</u>では、各自のテーマに沿って卒業研究を進め、卒業論文を完成させます。4年次前期中には、卒論のための調査や観察を実施します。<u>4年後期</u>では、調査や観察などの結果を分析し、卒論を執筆します。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>子どもの「発達」に興味、関心がある人、子どもの行動を不思議だと思う人、特に歓迎します。</p> <p>ゼミでは教員からの教授ではなく、自分で「問い」を見つけ、調べ、探究していきましょう。そして、自分の考えをゼミの仲間聞いてもらい、また、仲間の発表も聞き、意見交換をしましょう。必要であれば、自分たちで活動の場を開拓していくといいと思えます。</p> <p>それから、卒論を完成させるためには、共に学ぶ仲間の存在が大切だと思います。ゼミの仲間がそんな仲間になれるといいと思えますので、3年次4月に、4年ゼミ生と一緒にゼミ合宿を行い、親睦を深めます。ゼミ合宿では、文献講読を行い、論文の読み方やまとめ方、また、プレゼンやディスカッション等を行いながら、「考える」「意見を言う」「意見を聞く」経験を積みたいと思えます。卒業する時には、ゼミの仲間が何でも言える仲間になっていると嬉しいです。</p>			